

アレルギー性気管支肺真菌症の診療の手引き

日本アレルギー学会, 日本呼吸器学会(監)
「アレルギー性気管支肺真菌症」研究班(編)

神戸大病院教授・呼吸器内科学

西村善博

切望していた ABPM の 新たな診断基準がここに

アレルギー性気管支肺真菌症(allergic bronchopulmonary mycosis: ABPM)の診断には1977年にRosenberg, Pattersonらが提唱したABPAの診断基準が用いられてきた。40年以上前に提唱されたものである。近年の医療とのギャップを感じることもあったのだが, 本書では日本人におけるABPMの病態を明らかにし, 新たな診断基準が示された。

本書発刊に至るまでには, 東海大呼吸器内科学教授の浅野浩一郎先生を研究代表者とする「アレルギー性気管支肺真菌症」研究班の多大なる努力があったものと思われる。この研究班の前身は, 2013年に厚生労働科学研究の難治性疾患等克服研究事業の下に設置されたものであり, 本書は長年にわたる調査・研究の集大成といえる。研究代表者の浅野先生はこの分野の第一人者であり, 浅野先生を中心にアレルギー学・呼吸器内科学研究者の精鋭たちが結集し, ABPMに関する最新の知見がまとめられた。

ABPMは*Aspergillus fumigatus*を主とする真菌類が関与したアレルギー性疾患で, 末梢血好酸球数の増加, 高IgE血症などの血液検査異常, 気道内真菌の検出や真菌への抗体, 特異的な画像

異常が認められる。近年, 検査技術, 特に画像診断技術が進歩し, 日常臨床でも汎用されている。今回の新診断基準では, 胸部CT画像所見が10項目中3項目に適用されており, この点が従来の診断基準と大きく異なる。また, 新診断基準の検証も行われ, 感度95%, 特異度97%とRosenbergらの診断基準のそれぞれ25%, 98%と比較し, その有用性が実証された。また, 本書の各項目には「ポイント」として, 数個のまとめの記載があり, 初学者にも読みやすく理解しやすい構成になっている。

本書は, 内科, 呼吸器内科, アレルギー科の専門医をめざす若手医師のみならず, 呼吸器, アレルギーの専門医にとっても有益な良書であり, 本書を参考に的確な診断を行い, 一人でも多くの苦しんでいる患者さんを救うことにつながれば幸いである。



●B5/頁114/2019年
定価: 本体3,500円+税
[ISBN978-4-260-03921-5]
医学書院 刊